

農林水産商工常任委員会資料

(令和元年6月26日)

項目	ページ
1 環日本海定期貨客船航路の現況について	
	【通商物流課】 …… 1
2 とっとりインターンシップフェスティバルの開催について	
	【雇用政策課】 …… 2

商工労働部

環日本海定期貨客船航路の現況について

令和元年6月26日
通商物流課

1 DBSクルーズ社代表理事の交代及び県との面談

6月1日、DBSクルーズ社の株主であるイントップス社が、文琬煥（ムン・チュンウン）氏他1名に株式30%を売却し、経営陣が変更となり、文氏が新たな代表理事に就任した。また、以下のとおり県幹部等が、文代表理事に面談した。

- (1) 面談日 令和元年6月19日（水） 午後3時から ソウル市内ホテル
- (2) 相手側 DBSクルーズフェリー社 代表理事 ムン・チュンウン氏 他
- (3) 鳥取県側 鳥取県中部総合事務所長 吉川寿明 他（境港市及び環日本海経済活動促進協議会同行）
- (4) ムン・チュンウン DBSクルーズフェリー代表理事の発言
 - ・鳥取県の支援には感謝している。
 - ・これまでどおりの航路（境港、東海、ウラジオストク）での運航を継続したい。
 - ・自分（ムン・チュンウン DBSクルーズフェリー代表理事）は、環日本海交流に熱心であり、DBSクルーズフェリー航路は可能性があると考えている。
 - ・7月に鳥取県で開催されるDBSクルーズフェリー10周年記念行事には私を含め、3名が参加させていただく。

2 環日本海定期貨客船就航10周年記念セミナー

- (1) 日時 令和元年7月5日（金） 午前9時15分から10時まで
- (2) 場所 境港国際旅客ターミナル（境港市昭和町）
- (3) 主催 鳥取県
- (4) 内容 くす玉割、関係者への記念品及び花束贈呈等
- (5) 参加者 DBSクルーズフェリー関係者、環日本海経済活動促進協議会、境港市観光協会、境港管理組合、中海・宍道湖・大山圏域市長会、荷役会社、観光会社等

3 環日本海定期貨客船航路の状況

(1) 直近の境港における利用状況（2019年1月～5月・境港管理組合の暫定集計）

- ・境港～東海間の旅客数は、延べ乗客数は10,304人、1便当たり平均乗客数278人となり、前年同期比（1便当たりの平均乗客数）18.7%減（△64人）となった。
- ・境港の取扱貨物量は、ロシア向け完成自動車、韓国向け水産品が減少したことから、前年同期比（1便あたりの平均貨物量）27.9%減（△14.6ft）となった。

■旅客実績（1～5月）

区分	運航回数 (往復)	延べ 乗客数	1便当たり 平均乗客数	乗客国別内訳			
				韓国	日本	ロシア	その他
2018年	19航次	12,986人	342人	12,262人 (94.4%)	121人 (0.9%)	504人 (3.9%)	99人 (0.8%)
2019年	18.5航次	10,304人	278人	9,515人 (92.4%)	248人 (2.4%)	384人 (3.7%)	157人 (1.5%)
増減	—	△2,682人	△64人	△2,747人	127人	△120人	58人

■貨物実績（1～5月）

区分	運航回数 (往復)	境港での貨物実績				1便当たり 平均貨物量 (トン数)
		コンテナ貨物		バルク貨物	合計トン数	
		(TEUベース)	(トンベース)			
2018年	19航次	173TEU	862ft	1,127ft	1,989ft	52.3ft
2019年	18.5航次	153TEU	707ft	687ft	1,394ft	37.7ft
増減	—	△20TEU	△155ft	△440ft	△595ft	△14.6ft

* 1 TEU は、20 フィートコンテナ 1 個を表す単位

* トン数の単位としている ft(フレートトン)とは、容積 1.113 m³ (40 立方フィート)、重量 1,000 kg をもって 1 トンとし、重量または容積の何れか大なる方を採用する換算方式

* 2019 年は、境港に 5 月 31 日入航、6 月 1 日出航のため、5 月末締めだと 18.5 航次となる。

とっとりインターンシップフェスティバルの開催について

令和元年6月26日
雇用人材局雇用政策課

高校卒業後、進学・就職を機に若者が県外に流出している現状から、学生に県内企業の魅力を知ってもらい、インターンシップへの参加機運を高めるため、インターンシップフェスティバルを開催しました。(今年で3回目)
学生の来場数、参加企業数ともに過去最多となり、学生に企業情報を直接伝える場を提供する催しとして大変効果的で、インターンシップへの参加機運も年々高まりつつあります。

1 とっとりインターンシップフェスティバル

- (1) 日時 令和元年6月22日(土) 午後1時~4時35分
- (2) 場所 鳥取県立鳥取産業体育館(鳥取市天神町50-2)
- (3) 主催 鳥取インターンシップ推進協議会 ※県、大学、商工団体等11機関で構成
地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)
※産官と協働し、魅力ある就職先創出、地域が求める人材養成を行う大学を支援する文科省事業。(大学、自治体、商工団体等10機関で構成)



- (4) 参加学生数 446名 (昨年度:392人)
(鳥取大学293名、公立鳥取環境大学83名、鳥取短期大学17名、日本海情報ビジネス専門学校27名、県外大学等26名)
- (5) 参加企業数 80社 (昨年度:70社)
- (6) 内容

○トークライブ ~「とっとりインターンシップ」でチャレンジの夏にする!~

(内容) 学生の「インターンシップって何?」という素朴な疑問にインターンシップを経験した現役学生と若手社会人、「とっとりインターンシップ」担当者がトークライブを通して本音でお答えするトークライブ。

進行:鳥取大学キャリアセンター准教授 長尾博暢

区分	所属等	登壇者	登壇者コメント
若手社会人	(株) LASSIC	児玉莉奈	とっとりインターンシップでは、実習中記入する日誌や実習後の企業からの評価表など、企業からフィードバックをもらうことができる。これはとても貴重なことで、企業の方から具体的にアドバイスをもらうことで、その後の就活などでも活かすことができる。
現役学生	鳥取大学工学部 4回生	長原由実	県外出身なので大学に入っすぐのころは、地元に戻るうと考えていたが、インターンシップに参加して鳥取にも魅力的な企業があることを知れたことはすごく良かった。
	鳥取大学農学部 4回生	仲森寛晃	長期・有償型インターンシップに参加したことで、将来やりたいことがわかり進路を見定めることができたことがとても大きな成果だった。
	公立鳥取環境大学 2回生	知久真子	1年生の時に参加したインターンシップ先で、その職種が自分に向いているのか向いていないのか結論を出すことができ、自分の適性を早いうちに見極めることができた。
関係者	公立鳥取環境大学 学務課職員	生島湧気	長期有償型のメリットについての説明。
	鳥取県中小企業団体 中央会・コーディネーター	奥田洋次	とっとりインターンシップのメリットや実際のエントリー方法などを説明。

○参加企業ごとの個別説明(ブース形式で、企業概要及び実習内容を説明。4回ローテーション)

《参加学生の主な感想》

- ・文章だけでは分からない有益な企業情報を知ることができ、県外出身だが、鳥取県内での就職も選択肢に入った。
- ・同じ業種の企業を複数回だったが、業種は同じでも企業によって雰囲気がちがっていることが分かった。
- ・興味のある業種の企業ブースで話を聞いたが、体験談なども聞くことができ、仕事の内容をイメージすることができて、ぜひインターンシップに参加してみたいと思った。

《参加企業の主な感想》 ※終了後に聞き取りを行った企業からは、「学生が多くてよかった」との評価が多かった。

- ・とにかく学生の数がとても多かったことがとてもよかった。こんなにブースに人が来たのは初めて。
- ・意識の高い学生が多く、真剣に話をきいてくれてとてもよかった。
- ・とても多くの学生さんが来てくれたので、インターンシップに来てくれることを期待している。

2 今後の予定

- 6月末 / 1次募集締め切り(7月12日より2次募集開始)
- 7月中旬~9月下旬 / 夏季インターンシップ実施
- 11月中旬 / 春季インターンシップの合同企業説明会開催
- 2~3月 / 春季インターンシップ実施

<参考:とっとりインターンシップ参加者数及び県内就職者数の推移>

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
参加学生数	129名	162名	248名	382名	426名(8名)
参加学生の県内就職者数	38名	47名	71名	113名	R2.3卒業予定
うちインターンシップ先	1名	7名	13名	17名	-
受入企業数	55社	58社	74社	103社	110社(5社)
登録企業数	67社	116社	135社	158社	193社(27社)

※()内は
長期有償型

